

3月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

30年3月のDI値は8指標中、7指標が上昇。特に「売上高」及び「販売価格」は2桁の大幅な上昇となった。「景況」は横這いであった。

2. 県内中小企業の景況の現状

板金工事業や解体工事業では、引き続き需要が好調。また繊維製品製造業や商店街では、好天気や気温上昇で春物商品の動きが活発であり、家電製品小売業においても白物家電品の買換え需要等から、引き続き堅調であった様子。

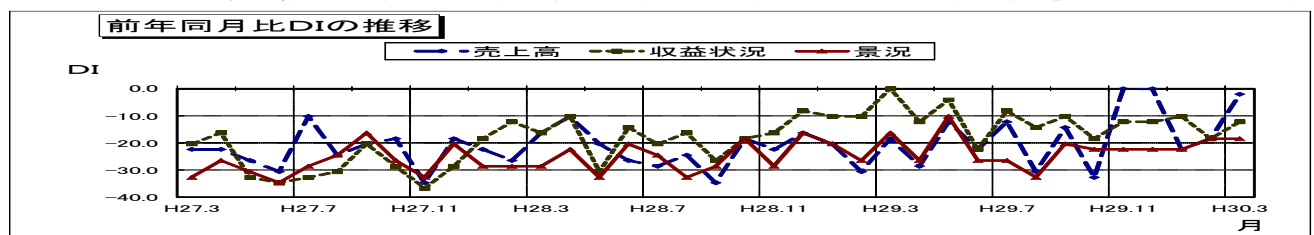
その一方、原材料の高騰分を商品に価格転嫁しづらいこと、県外の大型店の進出により原価割れの過当競争に頭を抱えていること及び、労働力問題が常態化していること等を不安視する声が聞かれた。

県内の景気は回復を続けているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念などにより、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業において

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

| | H29 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | H30 1月 | 2月 | 3月 | 前月比 増減 |
|-------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-------|-------|-----------|
| 景況 | -16.3 | -26.5 | -10.2 | -26.5 | -26.5 | -32.7 | -20.4 | -22.4 | -22.4 | -22.4 | -22.4 | -18.4 | -18.4 | 0.0 |
| 売上高 | -18.4 | -28.6 | -12.2 | -22.4 | -12.2 | -30.6 | -14.3 | -32.7 | 0.0 | 0.0 | -22.4 | -18.4 | -2.0 | 16.3 |
| 収益状況 | 0.0 | -12.2 | -4.1 | -22.4 | -8.2 | -14.3 | -10.2 | -18.4 | -12.2 | -12.2 | -10.2 | -18.4 | -12.2 | 6.1 |
| 販売価格 | -4.1 | 12.2 | 8.2 | -2.0 | -6.1 | 4.1 | 0.0 | 10.2 | 16.3 | 12.2 | 20.4 | 8.2 | 18.4 | 10.2 |
| 取引条件 | -4.1 | -6.1 | -8.2 | -4.1 | -8.2 | -6.1 | -6.1 | -4.1 | 0.0 | -4.1 | -6.1 | -8.2 | 0.0 | 8.2 |
| 資金繰り | -8.2 | -2.0 | 0.0 | -10.2 | -6.1 | -8.2 | -10.2 | -10.2 | -8.2 | -4.1 | -2.0 | -8.2 | -6.1 | 2.1 |
| 設備操業度 | 0.0 | -5.3 | 0.0 | -4.1 | -6.1 | -8.2 | 0.0 | -6.1 | -2.0 | -2.0 | -2.0 | -4.1 | -6.1 | 2.0 |
| 雇用人員 | -8.2 | -8.2 | -10.2 | -6.1 | -4.1 | -12.2 | -12.2 | -18.4 | -12.2 | -14.3 | -14.3 | -18.4 | -20.4 | 2.0 |

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



【景況関連の報告】

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・味噌の生産量は、前年同月比96.1%、出荷量は100.4%となった。前月比は生産量102.9%、出荷量は105.6%となり増加した。味噌全体に占める「御膳みそ」の比率は大幅に増加し、生産量42.5%、出荷量58.8%となった。一時的な増加かどうか月別で注視したい。

<繊維・同製品>

2. 縫製・3月末から気温の上昇・好天気恵まれ春・夏物が売れている。受注も順調に推移している。しかし、今年2月北陸地方の豪雪の影響で生地に遅れが発生している。北陸地方はニット生地の産地であり、豪雪の影響で2週間くらい出勤出来なかったのが原因である。人手不足は相変わらず続いている。ハローワーク等色々募集を出しているが、問い合わせは少ない。

<木材・木製品>

3. 製材・寒波等による原木集荷の停滞は解消されたが、年度末になり公共工事の受注もなくなり民需に期待している。
4. 製材・一進一退の状況で先行不透明である。
5. 木材・原木丸太入荷量は少ない状況で価格は強含みで坦懐しているが一般建築製材製品の動きは依然厳しい。しかし、やや低質材、合板CLT、木質バイオマス発電用木材等は供給不足感が窺え荷動きは活発である。
6. 木材・昨年から、木材業界は新築件数よりリフォーム件数が非常に多くなっており、これも人口減の影響と思われる。また、無垢材より新建材多用途化が進んでおり、実際の価格より高価になっている。

<印刷>

7. 印刷・3月は年度末需要に期待したところだが後半に集中し、全体としては伸びなかった。前年に比べても減少。印刷業界にとって大切な繁忙期の年度末需要はここ数年減少傾向が続いている。3月の年度末需要は印刷業界に限らず他の業界でも特別で重要な時期となる。年々減少をしていく年度末需要。日本経済全般から考えると、解決されなければならない問題点も多い。
8. 印刷・先月までずっと前年割れの傾向にあったが、3月に入りやっと前年並みになったという声が聞かれるようになった。今年度は前年並みが2、3か月あるだけであとは前年割れの様子であり、やはり通年では厳しい状況である。資材や運賃の値上げの影響もあり利益確保が難しい。今後も、資材や運賃の値上げ分を販売価格に転嫁出来る様に交渉を続けなければならない。

中小企業庁が昨年7月官公庁向けに、官公需法に基づく「平成29年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を発表した。その中で、「中小印刷会社の知的財産権の保護に十分留意した契約内容とするように努める」という事が明記された。これは印刷物納品時の知的財産権放棄項目を削除するよう求めている。今後地方自治体においてもその基本方針を守るようにして頂きたい。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・3月は昨年同月に比べて約20%出荷量は減少した。昨年度同月と比べて特需工事が終了したことが要因に挙げられる。ただ新年度からの新規特需工場の需要が期待されるが、全体的には出荷量は今年度を下回ると予想している。
10. 生 コ ン・3月の出荷量は、対前年同月比8%の減少となった。要因としては、1月以降の出荷数量が前年同時期と比較して民間での新規新設工事が少なかった事が影響している。3月より積算単価1,000円引き上げなるも、原材料であるセメント価格・骨材価格の引き上げ交渉が4月より始まり、当初予想された利益に繋がるは先行き不透明である。人員配置においても、高齢化が進んでおり、人材の若返りが求められる。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、引き続き横這い状況で推移している。一部引き合いの増・設備操業度の上昇傾向も見られるところではあるが、依然として先行き不透明感が強く、今後の景気動向が注視される場所である。
12. ステンレス・国内は、大手企業は継続的に設備投資が行われており、中小企業でも一部で動きも出始めているが全体としてはまだまだ様子見の状況。海外も大きな変化は無い。
外注品によっては、一部で納期遅れ等もあり。業種によっては高負荷な状態も見受けられる。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・全体として売上高や引き合い等良好な水準を維持しており、大きな変化は見られない。一部では、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が見られるものの、将来に対する先行き不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また引き続き従業員の確保難や原材料価格の上昇等が、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

14. 食 糧 卸・売上原価の上昇が利益を圧迫。人手不足が人件費上昇で利益を圧迫。

<小売業>

15. ショッピングセンター・売上高は全店計96.7%（既存店97.7%）と前年を割ったが、1月よりは若干良くなっている。昨年7月に「平成29年度中小企業活路開拓・実現化事業

の補助事業」の採択を受け、8月より事業を開始。共同店舗が抱える課題として「売上減少」「客離れ」「施設の老朽化」「空き店舗」「収益状況の悪化」等があるが、その原因として「お客様の高齢化による消費量の減少」「店主の高齢化」「競合店の出店」「ライフスタイルの変化」が考えられる。4月に当組合を含めた3組合で、活路開拓・実現化事業を通じて「ムダを省いた効率・効果的な販促策の構築」をテーマに事業を実施することを決定する。

16. 石 油・今年度内に県外業者が2ヶ所の大型給油所を新設し、その影響で販売価格が大幅に下落し、原価もしくは原価割れの過当競争が続いている。
17. 電 気 機 器・白物家電品の洗濯機、冷蔵庫、エアコン等は買換え需要も有り、引き続き堅調な動きである。しかし映像関連機器は動きが鈍い。12月スタートの4K放送に少し期待か？
18. 畳 小 売 業・年度末の公共工事の納品におわれる。引っ越し関係も20日過ぎからでてきた。あいかわらず一般家庭の仕事は少ない。寺院関連の仕事もでている。
19. プロパンガス・メーカーの「体感フェア」に参加し、顧客もそれなりに動員することができた。器具の売り上げも多少あり、参加してよかったと思う。

<商店街>

20. 徳 島 市・3月期中旬より好天と気温上昇で春物の動きが軽くなり、やや活気を取り戻した状況である。
21. 徳 島 市・高齢化に伴い、一店舗が閉店した。
22. 阿 南 市・全体的に横ばい。新年度に期待したい。

<サービス業>

23. 土木建築業・工務課は、新直轄（徳島～小松島）工事が多く、H31年度予算要求資料作成で徐々に忙しくなってきた。
道路管理課は、同じく31年度予算要求資料の作成と、調査資料の作成で担当技術員は忙しくなっている。
交通対策課は、同じく31年度予算要求資料の作成があるが、他の課よりは件数が少ないので工事金額は去年と同じ程度で、3課で一番少ない。
又、電共工事施工可能箇所が少なくなる。
24. 自動車販売整備業・軽自動車の新車販売台数は昨年同月とほぼ同数だが、普通自動車は約6%減。
点検整備などのサービスに関する収益状況は、軽自動車は4%減、普通車は24%と大きく減少した。
年間のトータルでは軽自動車の売り上げは6%増。サービスの収益状況は昨年とあまり変わらないが、全体として軽自動車の人気が続く、普通車は低迷している様子。

25. 旅 行 業・3月も天候不良のためか全体的に動きが鈍かった。

<建設業>

26. 建 設 業・平成29年度の公共事業は、国の関係はトンネル工事や橋脚工事などの発注があり増額となったが、県発注関係は大幅な減少となった。
国土交通省では、建設業の働き方改革をより加速するための新しい施策

パッケージ「建設業働き方改革加速化プログラム」を策定し、長時間労働の是正、給与・社会保険、生産性向上の3分野で新たな施策をまとめた。

27. 解体工事業・公共工事及び民間工事とも平年並み。民間戸建て住宅については、空家住宅及び住替住宅等補助金制度等の利用により好調。
28. 鉄骨・鉄筋工事業・年度末のため、工場の操業度が多少上昇気味と思われる。
29. 板金工事業・事業所により多少の差はあるが、順調に仕事がある。
30. 電気工事業・新設住宅口数：263件

<運輸業>

31. 貨物運送業・一般輸送貨物は、取扱業種により異なるが、3月は雨が少ない好天候が続いたことにより野菜・飲料関係は取扱増加。引越便は運転手不足により月末・4月月初にかけて手一杯の状況。
一方、軽油単価は前月比 約1円強の値下りとなった。
32. 貨物運送業・集計結果では売上高が増となっているが、増と答えた事業者でも収益状況は悪化となっている
ケースも多い。年度末のため売上は上がっているが、軽油価格の上昇や、繁忙期の荷物量をこなすための非効率な運行などによると考えられる。
引越関係では、繁忙期には変わらないが、大手では労務時間等のコンプライアンスの問題もあり無理な受注をしないため、以前よりは売上は落ちているとのこと。また、引越繁忙期を避けて分散引越する法人も増えているようである。